

7月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和8年7月末現在〕

令和8年8月10日
茨城県中小企業団体中央会

全体で「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、前年同月比はいずれも悪化した。前月比では「景況」、「売上高」は悪化した、「収益状況」は改善した。

製造業の「売上高」前年同月比は改善したものの、「景況」、「収益状況」は悪化した。前月比では、「売上高」、「収益状況」は改善したものの、「景況」は悪化した。非製造業では前年同月比および前月比のいずれも悪化した。

製造業、非製造業ともに、度重なる資材・原材料等価格の高騰に伴う価格転嫁が十分でないことで引き続き収益を圧迫しているとの報告が複数あった。

景況DI

全体では、前月比 5.2ポイント悪化の▲37.0ポイント、製造業は、前月比 4.1ポイント悪化の▲33.3ポイント、非製造業は、前月比 5.9ポイント悪化の▲40.9ポイントとなった。

売上高DI

全体では、前月比 8.8ポイント悪化の▲6.5ポイント、製造業は、前月比 4.2ポイント改善の4.2ポイント、非製造業は、前月比 23.2ポイント悪化の▲18.2ポイントとなった。

収益状況DI

全体では、前月比 1.6ポイント改善の▲37.0ポイント、製造業は、前月比 12.5ポイント改善の▲29.2ポイント、非製造業は、前月比10.5ポイント悪化の▲45.5ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和8年7月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品	学校給食パン	本年（4月）に包装資材価格が30%以上の大幅な値上げされ、6月にも5～6%程度の再値上げが実施された。これを受け、年度当初に年度での契約を締結していることは承知しているものの、包装代の値上げについて、各自治体と協議を進めている。 国（文部科学省・総務省）としても、自治体に対し、事業者より価格見直しの申し出があった場合には、迅速かつ適切に交渉を行うよう通知が発出されている状況にある。
		学校給食米飯	学校の夏休みに設備の修繕を集中して行っている。昨年と比較して明らかに材料費が上昇しており、建築関係・工事関係も厳しい状況が伝わってきている。見積もりの価格によって、例年行っている修繕の内容を見直し、資金の都合上、修繕を断念した。
		清酒	・県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 本年5月の清酒課税移出数量（出荷された清酒の数量）は、対前年同月比94.1%であった。酒質別数量割合では、吟醸酒および普通酒の出荷量がともに大幅にダウンした一方、純米酒は横這いで推移した。なお、清酒課税移出数量に占める酒質別の割合は、吟醸酒31.4%、純米酒22.1%、普通酒40.2%となっている。前年同月比低下は、個人消費の影響と原料米高騰による酒値上げの影響と思われる。 ・県内当業界について 7月23日に茨城県産業技術イノベーションセンターにおいて、10蔵が参加する市販酒研究会を実施した。全国のIWC（インターナショナルワインチャレンジ）上位入賞酒30点、上位3位までは茨城の酒であった。地方の零細な酒蔵が生き残るためには、日本酒ファンの嗜好がマニアック化しているなか、技術面での努力が必要不可欠で、経営上の最重要課題である。
		納豆	・中東戦争の影響により、石油化学製品である包材、資材の高騰、または調達が難しいなど、商品の製造制限等が出ていたが、徐々に調達はスムーズになりつつあるものの、包装・資材価格は上昇している。 ・包材、資材の価格の高騰が急速なため、商品への価格転嫁が間に合わず、値上げの分を加工業者でかぶる形になってしまう。 ・最低賃金の上昇を懸念する声がある。
		菓子	・戦争長期化、円安進行によるエネルギーや原材料・資材の価格高騰し収益を圧迫している。 ・商品価格への転嫁に時間を要している ・人材確保が困難な状況が続いている。
		漬物	・酷暑による原料野菜の不足と、米価高騰に伴う消費低迷により、極めて厳しい状況に直面している。 ・コスト高騰による収益の圧迫 原油高を背景とする燃料費・物流費の上昇に加え、調味料や包装資材、さらに「いりぬか」などの原料価格が高騰しており、売上があっても利益が残りにくく、収益悪化の傾向が続いている。 ・酷暑による原料難と収穫不安 7月の記録的な暑さと水不足が直撃し、漬物の主原料である野菜の生育不良や不足が深刻化している。栽培を手がける生産農家側でも「収穫時期が読めない」「種の蒔きつけを先送りせざるを得ない」原料野菜の安定調達が大きな課題。
	繊維工業	外衣シャツ	年間の受注が確定しているため、大きな変化はない。
	木材・木材製品	製材	・国産材製品は、全体的に荷動きが鈍く、価格はおおむね横ばいで推移した。 ・外材の価格については、原油高、円安等による原材料の値上げ機運が高まるなか、荷動きが低調であったため価格は横ばいで推移した。 ・原木価格については、スギは、引き合いが強く強保合、ヒノキは弱保合で推移した。
		県北地区プレカット	・月間加工坪数目標（1,000坪）は60%達成。8月加工予定は、夏季休暇を避けて初旬・下旬に集中し、16棟ほどを予定。 ・木材費は、高値安定を維持している。
	紙・紙加工品	段ボール	・7月は大手も含め前年対比で生産量は落ちており全体的に悪い状況。 ・大手で悪いところだと前年対比でマイナス5%は落ちている。 ・どこも仕事を探している状況で景気が悪い状況。 ・例年であればお盆休み前に駆け込みの仕事が入るところであるが、今年は全体的に少ない生産量で推移している。 ・戦争がいまだ終わっておらずさらなる資材の高騰が心配される。
	印刷	総合印刷	・経済活動や景況に関する話題はあまり見られなかった。 ・7月は当組合をはじめ、他県組合、全国連合会、賛助会員など、イベント、展示会等、非常に多い月であった。 ・熊本地震が発生し、熊本県の組合員様の被害状況などは、印刷工業連合会で調査中。
	窯業・土石製品	陶磁器	夏季は笠間市を訪れる観光客も減少し、販売店での売上高も減少するため、この期間は例年、秋の行楽シーズンに向けて商品の製造がメインである。
製 造 業	鉄鋼・金属	鉄鋼	・売上高は前年同月比10-15%程度増加。自動車部品・機械部品・建築金物などを含め全業種で比較的順調に受注が増加した。製品の加工単価は各社それぞれであるが値上げの方向である。 ・すべての金属が高値の状況のままであるとともに、薬品などの原材料についても高値の状態で、再値上げの通知も入っている状況。
	一般機器	生産用機械	・対象7組合員（製造会社）の売上高の状況は、増加7社、減少0社、全体増減率は116%（前年同月比）。 ・団地全体の売上高は、主要取引先のシステム更新が一段落して、受注が増加したことから、前年同月比116%の売上高となった。 ・また、受注増加により派遣社員が増加したことから団地全体の従業員は、前年比で約25名の増加となった。
	電気機器	重電	最低賃金を上げようとしているが、販売価格に反映されるまで時間がかかる。 賃金上昇により社会保険料も上昇し、予定納税も一年前の売上で支払うため、現在の売上が減少している状況では、とても厳しい状況にある。
		発電機	生産高は一定の水準を保っているが、販売価格、取引条件は厳しくなっている。
		生鮮魚介	お盆に向け市場に活気が出ることに期待したい。
		食糧集荷	米の民間在庫量が6月末時点で過去最多の243万トンとなり、販売は益々厳しい状態となっている。

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非 製 造 業	卸売業	袋セメント	・袋セメントの令和8年7月度出荷数量は前月比概ね横這いの23千袋、前年同月比96.4%で推移した。 ・新年度の公共事業は動き出しているが、全体的には土木受注の伸び悩みと住宅着工の減少が重なり、県内セメント需要は引き続き減少傾向。さらにイラン情勢がいまだ混沌としており、景況の先行き不透明感は変わらない。 ・私製袋価格とメーカー品との値幅は以前縮まらず、私製袋品への流出傾向は続いている。 ・月次売上高は袋セメント価格の値上げ（令和7年12月～）により前年同月比増収、収益面は老朽化備品の入替や諸物価値上げ等の影響を受け減益となった。
	小売業	鹿行地区共同店舗	ショッピングセンター全体の売上高は、前年同月比109.26%、来客数99.22%であった。
		県南地区共同店舗	ショッピングセンター全体の売上高は、前年同月比104.55%となった。
		燃料	関東甲信の梅雨明けは7月20日頃と平年並みであり、梅雨明け後は暑い日が続いたが、昨年は6月28日ころに梅雨明けした為、前年比較すると天候の関係により燃料の消費は下がった。また、洗車等の油外商品も雨の為大きく減少した。また、6月同様に仕入価格は少しずつ上昇しているが上昇幅が小幅な為価格転嫁出来ずにいる状況もあり、売上高、利益率の減少、物価上昇等のコストの上昇により経営は三重苦の厳しい状況にある。 小売り価格は国の補助事業にて170円程度に抑えられているものの、茨城県内の平均価格(別紙)は7月27日時点で166.3円と全国平均と比べ3.8円も安く全国でも6番目位に安い価格になっており、組合員SSは値取り出来ず疲弊している。 今年は公共工事、建設工事等の仕事が少ないと話している組合員もあり工事現場配達をしている組合員からは売り上げが落ちる懸念がされている。
		農機具	上期の売上増の反動、昨年度から比較して米価の下落予想等から、売り上げは減少気味。ただし、1月からの積み上げ売上高は前年を上回っている。
		スポーツ用品	・物価高騰の影響により、取引先からの仕入価格引上げ依頼が増加し、それに伴い学校・企業・一般顧客への販売価格への転嫁交渉を行っているが厳しい状況となっている。 ・価格改定により販売価格は一定程度上昇しているものの、今後は適正価格の見直しを進め、売上増加を図っていきたい。
		中古自動車	前年同月比で売上高（74.7%）、販売台数（78.9%）、販売価格（94.7%）共に、大幅な減少が見られた。 これは、前月同月の実績が非常に良かったことが影響しているためと思われ、前月比では同様の数字で推移している。 全国的に茨城県内の売上高等の実績が悪い状況にあることから、今後の動向を見守りたい。
		野菜・果実	・7月の取扱高は、前年同月比で野菜・果実が101.6%となり、過去5年間の平均と比較しても104.4%であった。 ・梅雨明け以降は暑い日が増加したものの、それ以前は比較的涼しい日が続いた影響もあり、市場内ではスイカの在庫が残る状況が見られた。 ・果実全般は、天候に恵まれたことから生育が進み、前進出荷傾向(農産物などの出荷時期が例年より早まっている状態)にあるものとみられる。
	商店街	筑西	・消費税減税は、ただ混乱して苦勞するだけのように感じる。食材仕入時、イートイン・テイクアウトどのようにわけののか。 ・1個100円の食材を仕入れて両方に使用する場合、どのようにするのか。業者泣かせでしかないと思う。 ・人気と1票とり対策はやめてほしい。
	サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数（持込検査）の対前年同月比は微増となったが、エンジンオイル等の油脂類の高騰が、収益面を悪化させている。
		旅館、ホテル	・県北エリア 宿泊客数は例年並みを維持する施設がある一方で、物価高騰による上がり幅が大きく、経費増が利益を強く圧迫する状況が続いている。また、昨年と比較して「食事なし」の宿泊利用が目立つようになっており、かつて目玉であった海水浴による集客力も低下するなど、レジャー需要の変化が伺える。インバウンドに関しては特定の施設に少数が集中するのみで、全体的な波及効果は薄い状況。 なお、一部施設では春からの館内改装工事に伴う一時的な売上減少も生じている。 ・県央エリア エリア全体として宿泊需要の低下が顕著に感じられる。各施設の稼働率が低迷していることから、集客を図るために販売価格を引き下げる動きが出ており、単価下落による厳しい状況となっている。 ・県南エリア 7月前半の台風の影響にとどまらず、月を通して全体的に受客が伸び悩む厳しい結果となった。ビジネス・レジャーともに需要が低下し、団体利用も例年に比べ大幅に減少している。インバウンド需要も振るわず、三連休を除き閑散とした状況が続いた。ゴールデンウィーク以降は高単価販売で売上を確保してきたが、7月の急激な需要の落ち込みにより、今後の市場環境に対する危機感が高まっている。需要動向を注視しつつ、販売施策や価格戦略の柔軟な見直しが迫られている。
		ビル管理	売上高は増加しているが、引き続き労務費・資機材消耗品等の上昇により利益の増加につながらない状況が続いている。
	建設業	電気工事	急激な電材の値上がりが続いており、価格転嫁が追い付かない状況。
	運輸業	軽貨物自動車	7月度の組合員数は94名（前月比-1名）、車両台数は123台（前月比-1台）。運送売上高は前年同月比87.9%。
		一般貨物自動車	主要顧客の発送物量は、ほぼ横ばいで変わらない。燃料価格については、高値横這いで下らない。オイルについては少し供給されてきたが、値段が大幅に上がっており、収益は厳しい状況となっている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食米飯	引き続き助成金関係の情報提供をお願いいたします。
窯業・土石製品	コンクリート製品	公共工事費（土木）の拡充、原材料の価格高騰への対応
電気機器	重電	業種別最低賃金は、国が決めるのではなく、自分の会社で決めるべきである。

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	小売業	燃料	・揮発油に課税している二重課税の廃止 ・中東情勢悪化に伴う自治体との燃料油販売契約への柔軟な対応、燃料供給不足に対する手配（重油等の不足） ・SS事業者への中東情勢悪化に伴う収益悪化に対する金融的支援 ・暫定税率分の軽油に係る地方税への適切な対応 ・国のガソリン等燃料補助金の今後についての消費者への周知徹底
	サービス業	旅館・ホテル	・来年からの軽減税率（1%）導入がほぼ決定したとのことですが、飲食店に与える影響は極めて大きいと危惧している。これに対する具体的な対策や支援方針についてお示しいただきたい。 また、行政機関に対しては以下の支援策を強く要望したい。 ・老朽化対策など、設備の修繕に幅広く対応・活用できる柔軟な補助金制度の創設を要望したい。

月次景況調査 7月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	7月	6月	前月比	7月	6月	前月比	7月	6月	前月比
景 況	▲ 37.0	▲ 31.8	▲ 5.2	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 4.1	▲ 40.9	▲ 35.0	▲ 5.9
売 上 高	▲ 6.5	2.3	▲ 8.8	4.2	0.0	4.2	▲ 18.2	5.0	▲ 23.2
収 益 状 況	▲ 37.0	▲ 38.6	1.6	▲ 29.2	▲ 41.7	12.5	▲ 45.5	▲ 35.0	▲ 10.5
販 売 価 格	21.7	20.5	1.2	16.7	20.8	▲ 4.1	27.3	20.0	7.3
取 引 条 件	▲ 26.1	▲ 18.2	▲ 7.9	20.8	▲ 16.7	37.5	▲ 31.8	▲ 20.0	▲ 11.8

中小企業月次景況調査(令和8年7月)DI値(前年同月比)

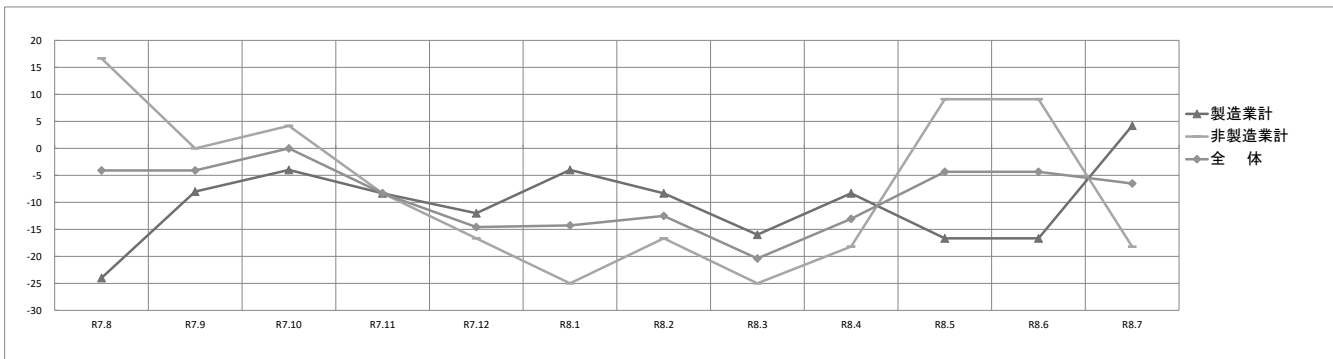
		売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況												
		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)														
				増加	不変			減少	業界数			増加	不変			減少	業界数			上昇	不変			悪化	業界数			好転	不変			悪化	業界数	好転	不変	悪化	業界数	好転	不変	悪化	業界数	増加	不変	減少	業界数	好転
製造業	食料品	28.6	3	3	1	7	△ 14.3	0	6	1	7	71.4	5	2	0	7	△ 14.3	1	4	2	7	△ 57.1	0	3	4	7	△ 28.6	0	5	2	7	0.0	1	5	1	7	△ 42.9	0	4	3	7	△ 42.9	0	4	3	7
	繊維工業	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2
	木材・木製品	50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2
	紙・紙加工品	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	窯業・土石製品	△ 25.0	0	3	1	4	25.0	1	3	0	4	0.0	0	4	0	4	△ 25.0	0	3	1	4	△ 25.0	0	3	1	4	△ 25.0	0	3	1	4	△ 25.0	0	3	1	4	△ 25.0	0	3	1	4	△ 50.0	0	2	2	4
	鉄鋼・金属	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1
	一般機器	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1
	電気機器	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2
	輸送機器	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
	製造業計	4.2	6	13	5	24	0.0	3	18	3	24	16.7	6	16	2	24	△ 20.8	1	17	6	24	△ 29.2	2	13	9	24	△ 25.0	0	18	6	24	△ 4.2	2	19	3	24	△ 20.8	1	17	6	24	△ 33.3	1	14	9	24
非製造業	卸 売 業	0.0	1	1	1	3	33.3	1	2	0	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3					0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	
	小 売 業 (商店街含む)	△ 30.0	1	5	4	10	△ 10.0	0	9	1	10	20.0	4	4	2	10	△ 40.0	0	6	4	10	△ 50.0	0	5	5	10	△ 30.0	0	7	3	10					0.0	0	10	0	10	△ 40.0	0	6	4	10	
	サービス業	0.0	1	1	1	3					50.0	1	1	0	2	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 100.0					0	0	3	3	△ 66.7	0	1	2	3		
	建 設 業	0.0	0	4	0	4					40.0	2	3	0	5	0.0	0	4	0	4	0.0	0	4	0	4	0.0	0	4	0	4	△ 25.0					0	3	1	4	0.0	0	4	0	4		
	運 輸 業	△ 50.0	0	1	1	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	1	1	2	0.0					0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2		
	非製造業計	△ 18.2	3	12	7	22					0.0	1	11	1	13	27.3	9	10	3	22	△ 31.8	0	15	7	22	△ 45.5	0	12	10	22	△ 22.7					0	17	5	22	△ 18.2	0	18	4	22	△ 40.9	0
全 体		△ 6.5	9	25	12	46	0.0	4	29	4	37	21.7	15	26	5	46	△ 26.1	1	32	13	46	△ 37.0	2	25	19	46	△ 23.9	0	35	11	46	△ 4.2	2	19	3	24	△ 19.6	1	35	10	46	△ 37.0	1	27	18	46

D I 値推移表 (R7. 8月 ~ R8. 7月期)

《売上高の推移》

前年同月比	R7. 8	R7. 9	R7. 10	R7. 11	R7. 12	R8. 1	R8. 2	R8. 3	R8. 4	R8. 5	R8. 6	R8. 7
食料品製造業	▲ 37.5	▲ 12.5	▲ 12.5	0.0	0.0	0.0	▲ 12.5	0.0	0.0	28.6	28.6	28.6
製造業(食料品製造業以外)	▲ 17.6	▲ 5.8	0.0	▲ 12.5	▲ 17.6	▲ 5.8	▲ 6.2	▲ 23.5	▲ 11.8	▲ 35.3	▲ 23.5	▲ 5.9
製造業計	▲ 24.0	▲ 8.0	▲ 4.0	▲ 8.3	▲ 12.0	▲ 4.0	▲ 8.3	▲ 16.0	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 16.7	4.2
卸売業	66.7	33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	0.0	0.0
小売業(商店街含む)	9.1	0.0	9.1	▲ 9.1	▲ 9.1	▲ 27.3	▲ 18.2	▲ 36.4	▲ 20.0	20.0	▲ 10.0	▲ 30.0
サービス業	66.7	▲ 33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
建設業	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 25.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	50.0	50.0	50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	▲ 50.0
非製造業計	16.7	0.0	4.2	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 18.2	9.1	9.1	▲ 18.2
全体	▲ 4.1	▲ 4.1	0.0	▲ 8.3	▲ 14.6	▲ 14.3	▲ 12.5	▲ 20.4	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 4.3	▲ 6.5

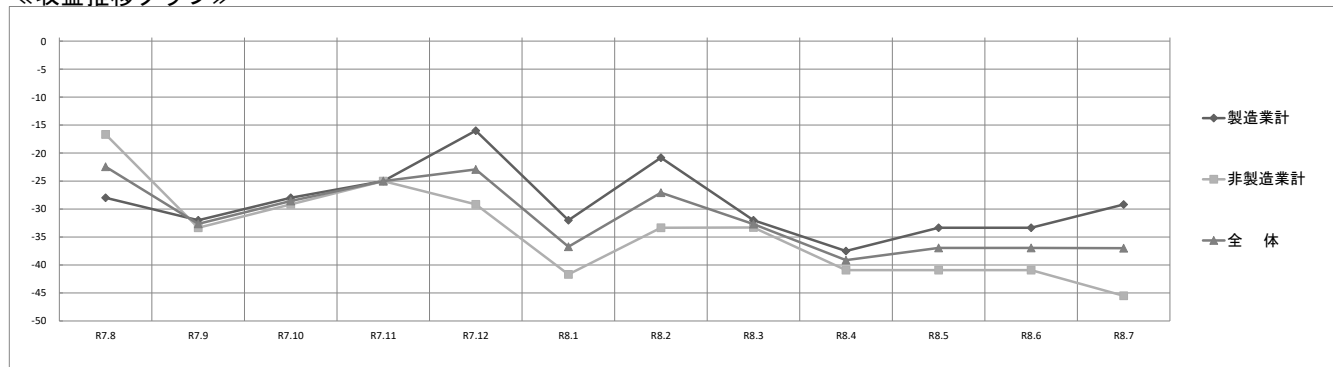
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R7. 8	R7. 9	R7. 10	R7. 11	R7. 12	R8. 1	R8. 2	R8. 3	R8. 4	R8. 5	R8. 6	R8. 7
食料品製造業	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 14.3	0.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 57.1	▲ 42.9	▲ 57.1	▲ 57.1
製造業(食料品製造業以外)	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 25.0	▲ 23.5	▲ 29.4	▲ 18.7	▲ 35.3	▲ 29.4	▲ 29.4	▲ 29.4	▲ 17.6
製造業計	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 28.0	▲ 25.0	▲ 16.0	▲ 32.0	▲ 20.8	▲ 32.0	▲ 37.5	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 29.2
卸売業	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 9.1	▲ 27.3	▲ 18.2	▲ 36.4	▲ 27.3	▲ 54.5	▲ 36.4	▲ 45.5	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 50.0
サービス業	0.0	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7
建設業	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 20.0	25.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 29.2	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 40.9	▲ 40.9	▲ 40.9	▲ 45.5
全体	▲ 22.4	▲ 32.7	▲ 28.6	▲ 25.0	▲ 22.9	▲ 36.7	▲ 27.1	▲ 32.7	▲ 39.1	▲ 37.0	▲ 37.0	▲ 37.0

《収益推移グラフ》

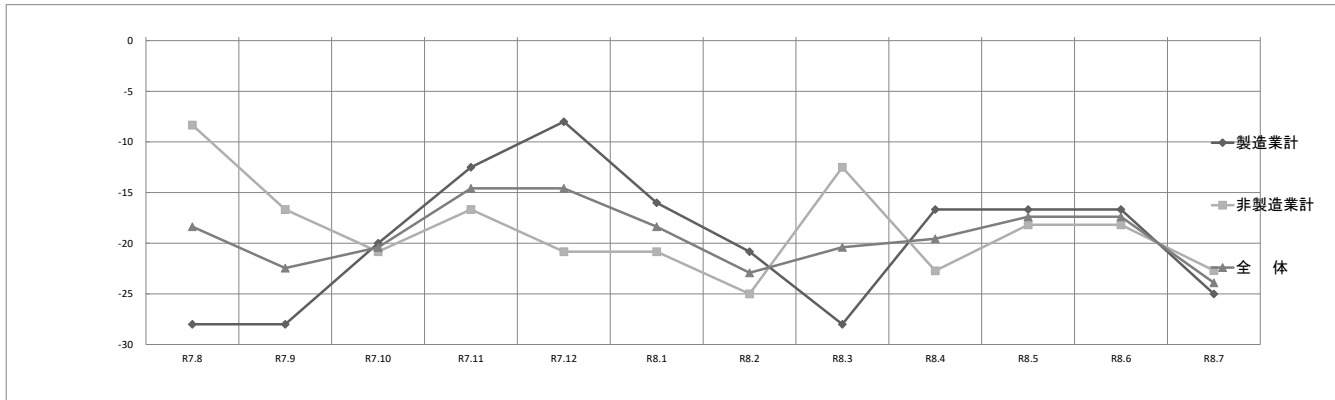


D I 値推移表 (R7. 8月 ~ R8. 7月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R7. 8	R7. 9	R7. 10	R7. 11	R7. 12	R8. 1	R8. 2	R8. 3	R8. 4	R8. 5	R8. 6	R8. 7
食料品製造業	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 14.3	0.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 28.6
製造業(食料品製造業以外)	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 17.6	▲ 12.5	▲ 11.7	▲ 11.7	▲ 6.2	▲ 23.5	▲ 11.8	▲ 11.8	▲ 23.5	▲ 23.5
製造業計	▲ 28.0	▲ 28.0	▲ 20.0	▲ 12.5	▲ 8.0	▲ 16.0	▲ 20.8	▲ 28.0	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 25.0
卸売業	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 9.1	▲ 9.1	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 30.0
サービス業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 33.3	33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
建設業	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 22.7	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 22.7
全 体	▲ 18.4	▲ 22.4	▲ 20.4	▲ 14.6	▲ 14.6	▲ 18.4	▲ 22.9	▲ 20.4	▲ 19.6	▲ 17.4	▲ 17.4	▲ 23.9

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R7. 8	R7. 9	R7. 10	R7. 11	R7. 12	R8. 1	R8. 2	R8. 3	R8. 4	R8. 5	R8. 6	R8. 7
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 14.3	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 42.9	▲ 42.9	▲ 42.9	▲ 42.9
製造業(食料品製造業以外)	▲ 29.4	▲ 29.4	▲ 23.5	▲ 18.7	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 18.7	▲ 35.3	▲ 35.3	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 29.4
製造業計	▲ 36.0	▲ 32.0	▲ 28.0	▲ 16.7	▲ 20.0	▲ 28.0	▲ 25.0	▲ 36.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 33.3
卸売業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 18.2	▲ 36.4	▲ 27.3	▲ 36.4	▲ 27.3	▲ 45.5	▲ 36.4	▲ 45.5	▲ 60.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 40.0
サービス業	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7
建設業	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 29.2	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 33.3	▲ 54.5	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 40.9
全 体	▲ 32.7	▲ 30.6	▲ 28.6	▲ 8.2	▲ 10.4	▲ 14.3	▲ 12.5	▲ 34.7	▲ 45.7	▲ 37.0	▲ 37.0	▲ 37.0

《景況推移グラフ》

